

平成26年度 須坂市立相森中学校グランドデザイン

学校経営ビジョン

- 1 日々の実践活動の中に教育目標が脈打つ学校
- 2 生徒も教職員も生き生きと活動している学校
- 3 明るい挨拶、伸び伸びした歌声、元気な歓声、追究と解決の面白さが溢れた発言・発表の声に満ちた学校
- 4 自らの手で、安全に、美的に、機能的に整備された学校

校訓 壮心不已

学校教育目標

優しさと輝きのある中学生

本校の課題

- 概ね「中学生らしい学校生活」を送っており、2大行事である運動会・音楽会での集団活動は特に意欲的である。
- ◇個の充実では、学習面で自信のない生徒が多い。
- ◇友人や家族を含めた人間関係づくりに脆弱さを持っている。このことが自己決定・自己責任の弱さに影響している。

学校を取り巻く環境

- 1 ソニー前身の工場跡に立地した校舎。古くから地域に期待されている学校
- 2 養蚕業で栄え、蔵の町須坂という文化財産を形成する中で、学習面に寄せる保護者の期待が大きい。
- 3 6小学校から入学してくる状況から人間関係づくりへの不安と生活的不安定さを抱える生徒

【特色ある教育課程】

- ① 「相森タイム（運動会・音楽会）」、「壮心の時間（地域を知る・ボランティア・職場体験）」の設定による生徒の主体的な活動の場の保障
- ② 通知票「学びの足跡」の改訂・充実
- ③ 「朝読書の時間」の設定による豊かな表現力、心の育成
- ④ 「挨拶」「清掃」「合唱」を通した生徒の心の育成
- ⑤外部指導者による専門性の充実

【楽しい学校】

- ① リーダー性の育成
月曜日のノー部活デーを利用した、「班長会」や「学年運営委員会」、「学年集会」等の充実
- ② 二大行事「運動会」「音楽会」に向けた年度当初からの「相森タイム」を使った学年運営
- ② Q-Uを実施し、生徒理解とその対応を充実する

めざす子どもの姿

- 1、人・物・社会に感謝し、美しいものや正しいものを大切にする生徒
- 2、人の良さに学びながら、自分の力で問題を解決しようと挑戦する生徒
- 3、相手の気持ちになって考え、心開いた仲間づくりができる生徒
- 4、意味ある体験・経験を通して心身を鍛える生徒

【教科研究テーマ】

- 【国語】生徒が考える過程を大切にし、読みとったことや考えたことを豊かに表現するための学習はどうあったらよいのか
- 【社会】社会科を学ぶ楽しさを実感させる授業の創造
- 【数学】問題解決で数学を活用する生徒を育成する学習活動のあり方
- 【理科】生徒たち自らがこだわりを持ち、主体的に観察・実験する理科指導はどうあったらよいのか
- 【音楽】音楽要素の効果を感じ取って聴き、楽曲の美しさを味わう鑑賞活動のあり方
- 【美術】生徒の表現力や鑑賞力を高めるための振り返りの時間はどうあったらよいのか
- 【保健】友と関わり合いながら運動の技能を高め、運動の楽しさを深めるための授業作りはどうあったらよいのか
- 【技家】生徒とともに創る技術家庭科の授業
- 【英語】まとまりのある文章を書く活動を通して考えや気持ちを伝え合う力を育てる指導のあり方
- 【道徳】生徒自らが心を耕し、考えを深めていく道徳の授業はどうあったらよいのか
- 【特活・総合】生徒が主体的に課題を見つけ、解決したり、自己の生き方を考えたりする学習活動のあり方
- 【人権教育】自己を振り返り、差別や偏見を自分の問題として考え解決していくようとする生徒を育てる指導はどうあったらよいのか
- 【特別支援教育】一人一人の生活を豊かにし、自立する力を育てる支援のあり方

【全校研究テーマ】

どの子もわかる・できる・粘り強く高め合う授業の創造を目指して

本校において育成する「生きる力」

- ・体験を経験に、経験を知恵に生かしていく力
- ・他律を通して、自らを律していく力
- ・時と場に応じながら、相手の立場に立って、発信・行動できる力
- ・支え、支えられている関係の自覚

○「自己選択・自己決定」
～フレンズ・スマイル・ハーモニー～

特別支援教育の充実

- 共に悩み、共に考え、共に成長する集団づくりとリーダーの育成をめざす
特別活動
- 自己を見つめ、題材や友との関わりから、自らの考え方や生き方を見つめなおす**道徳指導**
- 人やこととひびき合いながら自己を振り返り、人権感覚を高める**人権教育**
- 自ら考え、自ら判断し、自ら行動を起こす力を育む**総合的な学習の時間**

【研究の視点】

- 「わかる」「できる」授業の創造
→基礎・基本の定着を図るための教師の指導力向上
- 「粘り強く高め合う」授業の創造
→個に応じ、個を生かす指導・支援のあり方と互いに高め合う相互学習の位置付け